

Title	故郷南京に日本語学校を設立して
Sub Title	
Author	宦, 文偉(Kan, Bun'i)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2022
Jtitle	日本語と日本語教育 No.50 (2022. 3) ,p.93- 95
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	刊行50周年 特集：修了生の現在 〔日本語教育の現場から〕4
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20220300-0093">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20220300-0093</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 故郷南京に日本語学校を設立して

宦 文 偉

慶應義塾大学大学院の筆記試験に合格した後、口頭試験では、「卒業後は国に帰って自分の日本語学校を作りたいです。」と自分の将来について語った私は、大学院に入学する前からすでに日本語学校の設立を自分の人生目標のひとつとしていたのである。

ここ数十年、中国の経済が著しく発展したとはいえ、まだ日本には及ばない。そのため金銭的待遇面から考えると、中国人留学生は日本での就職を選ぶことが多い。中国の留学生にとって日本で就職することが一番いい進路だという人もいる。修士課程修了に際して、私も一度は「留学生の先輩方と同じように、何とかして日本で就職したい。」という気持ちに傾いたことはあった。しかし、何か月も悩んだ末に、やはり私は自分の夢に向かってまっすぐ走っていきたいという気持ちが勝り、卒業後まっすぐ中国に帰って現場の日本語教育に携わることにした。

私の実家は南京にあるということもあって、帰国後、私は南京にある江蘇卓越日本語専修学院という日本語学校に就職した。この日本語学校は主に日本に留学を希望する高校生を対象に日本語（及びEJU日本留学試験の各科目）を教えており、江蘇にあるいくつかの公立高校とも連携して、日本留学クラスを設置している。なぜこの日本語学校に就職したかという点、日本語学校を作りたいのであれば、まず一人前の日本語教師になるために教育経験を積む必要があると思ったからだ。私はこの学校で約三年間働いて、現場の日本語教育とはどういうものなのかを実践しながら勉強した。最初に教壇に立ったときは日本で勉強したことをうまく生徒たちに教

えられるかと不安だった。しかし、生徒を教えているうちに、私は次第に現場の日本語教育に慣れてきて、それなりに授業に自信が持てるようになった。

教室で生徒と向き合うことに慣れてきたところで、私は自分の日本語学校を立ち上げるという目標に向けて、さらなる一歩を踏み出した。就職しておよそ三年経ったときに、私は辞表を出した。勤務校をやめて、本格的に自分の日本語学校を立ち上げるの準備に入ることにした。勤務していた日本語学校は、主に政府や公立学校と連携して、高校に日本留学クラスを設置するという方針を持っていて、私の理想とは異なっていた。私は興味だけで日本語を勉強したい人も含めてあらゆる人を対象に教える日本語学校を作りたいと思っていた。留学のためだけに日本語を勉強する（あるいは勉強させられる）高校生だけを対象にするよりも、日本語に関心をもつすべての人を対象にしたほうが教え甲斐があって、仕事としても面白いと考えたのである。

2019年3月、私が設立した日本語学校は「慶桜（けいおう）日本語」と名づけた。この名前にしたのは、二つの理由がある。一つは、発音には私の母校「慶應」と同じであること、もう一つは、「桜＝さくら」という日本のシンボルである花の名前が含まれているので、いかにも日本語学習への意欲を高められるという感じがすることだ。

そして、いざ本格的に日本語学校の運営を始めてみると、新たに考えさせられたこともいくつかあった。

まず、二十世紀前半の歴史的な経緯もあって、南京はあまり日本語教育というビジネスに向いていない町だと昔からよく言われてきた。しかし、実際に日本語学校を初めてみると、意外にも南京には日本語を勉強したい人が多いということに気づいた。やはり、中国の他の地域と同じように南京にも日本語や日本文化に関心をもつ人が多いということを改めて知らされた。

次に、本校は高校生に限らず、すべての人を対象にする、という方針で、入学者は大学生や社会人の割合が多い。仕事のために日本語を勉強しておきたいという人もいれば、ただ単に興味本位で日本語の勉強をしたい人もいます。南京には日本語を専門に教える日本語学校（日本語教室）は何校もあるので、競争が激しい。そこで、顧客となる学生を本校に引き付けるためにはより専門的な知識と面白い授業の演出が必要だ。したがって、本校では常に授業内容と教師育成には、最も力を入れている。授業の内容は本校の教師同士（私も含めて）で何度もシラバスの検討・確認をしあって、ある程度まとめ上げた後にそれを授業の基準として教師間に定着させる。均質化した授業内容によって、本校のどの教師にも専門性の高い面白い授業を展開させることができる。

最後になるが、今後の抱負としては、主にインターネットでの通信教育について事業を展開していきたいと考えている。今の中国では、動画サイトや動画アプリなどが普及している。これらの媒体を通じて授業を展開すれば、その時こそ、南京だけでなく、中国全土を対象に日本語を教えることができるようになるだろう。そのためには、一点一点の短い動画という形式を利用して興味深い授業ができるかどうかが必要になる。そして、今までにない課題にも直面しなければならなくなるだろう。これらのチャレンジすべき課題を一つずつ着実にクリアするために、慶應で学んだことを生かしながら、これからも日本語教育事業で頑張っていきたいと思う。

## 経歴

宦 文偉（カン ブンイ）

中国江蘇省南京市出身

2010年6月 南京河海大学情報学部計算機科学・技術専攻卒業

2016年3月 慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野  
修士課程修了

2016年4月～2019年2月 江蘇卓越日本語専修学院 専任講師

2019年3月 南京慶桜日本語学校設立

現在に至る